

桂園一枝苑

94
59
1

911.158
584
Vol 2

部	雑歌
巻	46
頁	3
日	彦根中學圖書部蔵



雑歌上

朝



思ふ事絲そ人の宛小居あらなりしに
 思ふ事絲そ人の宛小居あらなりしに
 思ふ事絲そ人の宛小居あらなりしに

題

燈のもやぶらじきて
 燈のもやぶらじきて
 燈のもやぶらじきて

かたはれくち
 かたはれくち
 かたはれくち

ほしくやまの思ふ
 ほしくやまの思ふ
 ほしくやまの思ふ

海

海
 海
 海

海に舟を乗せしむるは
磯浪

花の露のしほきよき
題名

まじりては浦の明にち
海邊眺望

舟をこぎては松浦に
舟をこぎては松浦に
舟をこぎては松浦に
舟をこぎては松浦に

舟
舟をこぎては松浦に

舟をこぎては松浦に
舟をこぎては松浦に
舟をこぎては松浦に
舟をこぎては松浦に

湖上舟
舟をこぎては松浦に

舟をこぎては松浦に

おぼろの世の女もあつたかと思はれしは
おぼろの世の女もあつたかと思はれしは

閑居夢

おぼろの世の女もあつたかと思はれしは
おぼろの世の女もあつたかと思はれしは

閑居

おぼろの世の女もあつたかと思はれしは
おぼろの世の女もあつたかと思はれしは

拙

おぼろの世の女もあつたかと思はれしは
おぼろの世の女もあつたかと思はれしは

市

おぼろの世の女もあつたかと思はれしは
おぼろの世の女もあつたかと思はれしは

田

おぼろの世の女もあつたかと思はれしは
おぼろの世の女もあつたかと思はれしは

池

おぼろの世の女もあつたかと思はれしは
おぼろの世の女もあつたかと思はれしは

峯

おぼろの世の女もあつたかと思はれしは
おぼろの世の女もあつたかと思はれしは

田

Handwritten text in Arabic script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in Arabic script, possibly a section header or a specific note.

Handwritten text in Arabic script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a section header or a specific note.

Handwritten text in Arabic script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in Arabic script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in Arabic script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in Arabic script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a section header or a specific note.

Handwritten text in Arabic script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a section header or a specific note.

Handwritten text in Arabic script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a section header or a specific note.

Handwritten text in Arabic script, continuing the main body of the document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a section header or a specific note.

Handwritten text in Arabic script, continuing the main body of the document.

山家入稀

松の葉の緑はなほ秋の風を待たぬ

そとくはなほ秋の風を待たぬ

山家客来

佳ぬれはなほ秋の風を待たぬ

物の言はなほ秋の風を待たぬ

古松の影はなほ秋の風を待たぬ

古松

すなはち秋の風を待たぬ

松色映水

大堰のほとけの松はなほ秋の風を待たぬ

人の言はなほ秋の風を待たぬ

葉のゆく君の影はなほ秋の風を待たぬ

對松年輪

子日ひらふ世はなほ秋の風を待たぬ

三寶院の御別業省耕其松十二景の和歌

松風と文子と... 伊勢が... 松風と文子と... 伊勢が... 松風と文子と... 伊勢が...

は... の松... 伊勢が... 松風と文子と... 伊勢が... 松風と文子と... 伊勢が...

美代... 東六條... 河... 子... 下... 播磨の別府... 美代... 東六條... 河... 子... 下...

Handwritten text in Arabic script, first line on the left page.

تذکرہ

Handwritten text in Arabic script, second line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line on the left page.

تذکرہ

Handwritten text in Arabic script, first line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line on the right page.

تذکرہ

Handwritten text in Arabic script, fifth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line on the right page.

有る人々の心は、旅の途程を、

雨中燈

よきよき旅の道、雨の音を、

題不知

燈の光を、人々の心、

旅行

草枕の、旅の道程、

旅曉

行進する旅の道程、

旅朝

身も心も、旅の道程、

旅宿松風

旅の宿に、松風の音を、

月前旅情

旅の途程、月夜の光を、

旅の道程、月夜の光を、

蒙古の諸部を統率するに當りては

其の人心を安んずるに當りては

其の俗を順はるに當りては

其の言を聽くに當りては

其の行を法むるに當りては

其の心を察するに當りては

其の情を察するに當りては

其の意を察するに當りては

其の志を察するに當りては

其の徳を察するに當りては

其の業を察するに當りては

其の福を察するに當りては

其の禍を察するに當りては

其の咎を察するに當りては

其の過を察するに當りては

其の失を察するに當りては

其の罪を察するに當りては

其の惡を察するに當りては

毒雨の軒葉を電の信濃なる伊余の在る所の世に
あはれ

玉の珠を長くみよせせたるやあはれ
師を乃末はく越後國寺泊りの圓雅法師
都をさうて近に國をさうてあるは
年をじよばち新しむる

司

池田基礼喜乃桂舟をて志くある

之はるふ事くくみく眼を

手家

君を色よみ松の年をくまはる伊藤の松に

肉の眉生秋原貞起わの藝を出く信濃國の

しりてくくくくくくくくくくくくくくくくくく

信濃路の本そのの向かきくくくくくくくくくく

述懐

かくんちのくくくくくくくくくくくくくくくくく

いづれかよひてはなれぬとぞ思ふ

夜述懷

いづれかよひてはなれぬとぞ思ふ

獨述懷

いづれかよひてはなれぬとぞ思ふ

懷舊

いづれかよひてはなれぬとぞ思ふ

懷舊淚

いづれかよひてはなれぬとぞ思ふ

寄妻懷舊

いづれかよひてはなれぬとぞ思ふ

佳事渺茫都似夢

いづれかよひてはなれぬとぞ思ふ

無常

いづれかよひてはなれぬとぞ思ふ

いづれかよひてはなれぬとぞ思ふ

清く正しく誠実に生きよ

一

切なる家訓に守られしむるは

題

宗徳天皇御紀

崇徳天皇御紀

松平清康公御紀

八條相國六百五十回御紀

一

五月二日

新皇嘉門院

院

院

院

院

御書

御書

小海蘆菴

親

右

左

御書

御書

御書

御書

御書

御書

御書

誠拙

御書

御書

或人の國へ来た事あるは、
或人の國へ来た事あるは、

之は、
之は、

之は、
之は、

之は、
之は、

之は、
之は、

昌敷の病せまりて、
昌敷の病せまりて、

事は甚よ、
事は甚よ、

之は、
之は、

人千の事、
人千の事、

大略、
大略、

之は、
之は、

何か、
何か、

之は、
之は、

之は、
之は、

之は、
之は、

之は、
之は、

引かへくわんせうのうたふくしんせうのうたふくしんせうのうた

舞臺にまゝのうたふくしんせうのうたふくしんせうのうた

ねのうたふくしんせうのうたふくしんせうのうたふくしんせう

越後獅子

みづのうたふくしんせうのうたふくしんせうのうたふくしんせう

尉せ焼のうた

相生港松よりのうたふくしんせうのうたふくしんせうのうた

ふくしんせうのうたふくしんせうのうたふくしんせうのうた

海人か今とらふまじはるに枕をひくぬく秋更よとて来

末廣といはるる猿樂の音

ふくしんせうのうたふくしんせうのうたふくしんせうのうた

同く鞆猿

ふくしんせうのうたふくしんせうのうたふくしんせうのうた

同く十身

漢子かおのうたふくしんせうのうたふくしんせうのうた

遊女の物ほのうた

行はれし謀りては流長は神くわたりて人か
若きとて流長は見はれりて雪の中は
ゆき園

秋は静かに女の福様とて遠方の園
か

か
竹ま菫のちりり靡るる
か

か
蝶ふりてなまの園
か

ものうへに君がぬらぬほしな本とてあつても契りか
安倍仲磨と明州の海邊とて饑^{セシ}く
か

か
濱主の和風長壽樂まの園
か

か
陵王まの園
か

か
四方はしるる
か

おしるひ紀のまゝなるまゝはるるのしるしをいふ

芳野川の岸よりて敷冬入路の圖

おしるひのまゝなるまゝはるるのしるしをいふ

渡邊の理と其姨と相くはるるの圖

渡邊の理と其姨と相くはるるのしるしをいふ

西行上人猫の香爐とて存るる

中へいひしるまゝなるまゝはるるのしるしをいふ

もちりきり池のむらさき今もいふまゝなる

もちりきり池のむらさき今もいふまゝなる

もちりきり池のむらさき今もいふまゝなる

もちりきり池のむらさき今もいふまゝなる

もちりきり池のむらさき今もいふまゝなる

湯谷よもいふ

もちりきり池のむらさき今もいふまゝなる

王昭君

西の緒はすも月とまよふらん波もなむとさるる

李夫人

中へに終の業はつらきもなほしるる心はなほ

李夫人去漢皇情

らるる心はつらきもなほしるる心はなほ

花兼子

子にさへも秋の心はなほしるる心はなほ

韓信、市人の腹くち

かち和州市の暮をしの思ふまゝなほしるる心はなほ

東方朔とて桃をわらふる

を代はなほしるる心はなほしるる心はなほ

朝雲長

桃園の春はなほしるる心はなほしるる心はなほ

主質

斧の柄はなほしるる心はなほしるる心はなほ

唐漢の三笑

そはくは芳野の若くは倍の歌もかくもかくもいふ

李白、醉はりてをりし曲

文の底ははる月を影にみてもいかにいかにいかに

漢の三賢境の所門をすくし詳由の飄を精より

人果てはなごころくすもいかにいかに

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

まゝ漢武、鷹は是より文のいかにいかに

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

世中にあつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

面壁の達磨

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

布袋の後しつたつたつたつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

青蓮江入の歌をよみてははるかに響く

月法指

月法指とてはるかに響く

賓頭盧

賓頭盧とてはるかに響く

寒山拾得

寒山拾得とてはるかに響く

丹霞佛像とてはるかに響く

丹霞佛像とてはるかに響く

観子擬とてはるかに響く

観子擬とてはるかに響く

野寺僧帰

野寺僧帰とてはるかに響く

野寺隱喬木

野寺隱喬木とてはるかに響く

基頭有酒

基頭有酒とてはるかに響く

Handwritten text in a cursive script, likely a title or the beginning of a letter.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

雜歌下

正月一日松平公忠孝の文秋来早て草紙

手紙

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

清園志すいぬり大輔の君は徳ひくはえの精

か歌詩仙堂はくは柴の戸推明

福音子... 御書

...

...

...

...

登壽院 法印

...

...

...

...

...

...

...

...

三昧子

...

二月三日... 坂...

歳... 坂...

梅荷詣

坂...

涅槃會

坂...

西行上人の歌供へ春月言志の事

坂...

春釋教

坂...

成人の道徳と頌への世春來夢

坂...

坂...

坂...

坂...

坂...

馬の御信を以て御事なすは月を以て御事なすは

并に御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

藤清公御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

世継直貞の御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

御事なすは御事なすは御事なすは御事なすは

此の世にあらば
人の世にあらば
六月の末にあらば
七月の初めにあらば

八月の初めにあらば
九月の初めにあらば
十月の初めにあらば
十一月の初めにあらば

福秋傳

十二月の初めにあらば
正月の初めにあらば
二月の初めにあらば
三月の初めにあらば

福秋傳

四月の初めにあらば
五月の初めにあらば
六月の初めにあらば
七月の初めにあらば

八月の初めにあらば
九月の初めにあらば
十月の初めにあらば
十一月の初めにあらば

福秋傳

十二月の初めにあらば
正月の初めにあらば
二月の初めにあらば
三月の初めにあらば

福秋傳

四月の初めにあらば
五月の初めにあらば
六月の初めにあらば
七月の初めにあらば

八月の初めにあらば
九月の初めにあらば
十月の初めにあらば
十一月の初めにあらば

新編中世の歴史

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

水橋より

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

白から

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

三條前

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

題名

一ノ百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十

十月乃末母君の四十九日五戒の

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

不偷盜戒

禁酒戒のつゆは

一月樓了す

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

禁酒戒のつゆは

青

カラ抽命... 神祇

黄

口平... 神祇

赤

う... 神祇

白

後... 神祇

黒

く... 神祇

神祇

社... 神祇

神... 神祇

社... 神祇

三輪

社... 神祇

題名

神領の... (Faint vertical text)

寄神祝

... (Faint vertical text)

... (Faint vertical text)

寄日祝

... (Faint vertical text)

寄月祝

... (Faint vertical text)

寄水祝

... (Faint vertical text)

寄都祝

... (Faint vertical text)

... (Faint vertical text)

寄松祝

... (Faint vertical text)

きぬのまはるしあしとせしむるはちかきしはちかきしはちかきしはちかきし

題し

陸奥の東よりの松の木の葉の影の長さは

寄竹祝

くぬすまはるしあしとせしむるはちかきしはちかきしはちかきしはちかきし

寄花祝

百敷のたよりをたはらふはちかきしはちかきしはちかきしはちかきし

寄道祝

奥のたよりをたはらふはちかきしはちかきしはちかきしはちかきし

雜躰

長哥

江戸又ありては四月かよと原庭あり
 葵園よりそとてけいせいで一日あり
 ありきとていふ

春もよむとてありては四月かよと原庭あり
 けいせいで一日ありては四月かよと原庭あり
 けいせいで一日ありては四月かよと原庭あり

猪名乃里彩が壽世尼より淡海の濱つゞ
あつて驚かすにわが心はたゞしに
時よきはつとく分致

潮ももつと藻とついで汐干しく真砂よりさら
時浦を吹のよに沖津浪立ちわよふたつ
拾包海がらぬ大天に膳取の濱の磯れより
まふる山は石乃中より龍りまじ其漢を伊加
お美流い打出す杖光鼓貴乃真玉と綿は是乃

海人作

はくはく十張管の七車もく人玉もかき入る

獲子後の赤壁乃あつてのよ

十月時あつて何う大重たつてはつてはつてはつて
外中水も流く岩のあつてはつてはつてはつてはつて
まゝく酌邊のまゆつてはつてはつてはつてはつて
花うのまも好うつてはつてはつてはつてはつてはつて
本枯の夢つてはつてはつてはつてはつてはつてはつて

のまゝに流れてゆく里は清き水もさへ浦邊に
うらも鶴の毛衣の夢へ今昔は友の今も入る

旋頭哥

五月の末の若しは國は伊丹の里
くらくら痛むるもさへはなれぬ
駿河守まじりの都はちかぢか
あゝとてはなれぬもさへはなれぬ
はなれぬもさへはなれぬ

あゝとてはなれぬもさへはなれぬ
はなれぬもさへはなれぬ

木槿の花もさへはなれぬ

さき垣の小枝の中は槿の花もさへはなれぬ
相づきのれ

大尊會はなれぬもさへはなれぬ
まれのまゝはなれぬ

大尊會はなれぬもさへはなれぬ

月う照きし家

至りし者種かきし事家入はさるる

善乳根の末ゆきし事かきし種かきし事
始れ今も記さるる事

信濃國招かれし小林為邦くは此業

かきし事かきし事かきし事馬れさるる事

よの事かきし事白葉と名けし事かきし事

事かきし事かきし事かきし事

歳さるる事かきし事かきし事華の事かきし事

志かきし事かきし事かきし事

俳諧哥

社頭の春さきし事かきし事

石上かきし事かきし事かきし事かきし事

くさき始り家梅始開とさきし事

道かきし事かきし事かきし事かきし事梅の事

津路の事かきし事かきし事

Handwritten text in Arabic script, top line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, top line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line of the right page.

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

菊の花

花のうらみはさかすかにあはれ

題

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

花のうらみはさかすかにあはれ

諸君の御覧の如く此の書は
周の書にして其の書は
よき書にして其の書は
その書は其の書にして
相も其の書にして其の書
を其の書にして其の書
一月構へて其の書は

鴨の書にして其の書は
題一紙

くし牛の書にして其の書は
琴の書にして其の書は
徒の書にして其の書は
日其の書にして其の書は
其の書にして其の書は
其の書にして其の書は
其の書にして其の書は
其の書にして其の書は

Handwritten text in cursive script, top line of the right page.

Handwritten text in cursive script, second line of the right page.

Handwritten text in cursive script, third line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, top line of the left page.

Handwritten text in cursive script, second line of the left page.

Handwritten text in cursive script, third line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the left page.

人海に身を投じて、
舟楫を操りて、
波濤を凌ぎ、
風浪を耐へ、
遠くを航し、
目的地に至る。此の如く、
人生の道は、
艱難を乗り越え、
希望の光を待つ。此の道は、
決して平坦な道ではない。然し、
希望を失ふことなく、
勇気を持って進む。此の道は、
決して短い道ではない。然し、
希望を失ふことなく、
勇気を持って進む。此の道は、
決して短い道ではない。然し、
希望を失ふことなく、
勇気を持って進む。

人生の道は、
艱難を乗り越え、
希望の光を待つ。此の道は、
決して平坦な道ではない。然し、
希望を失ふことなく、
勇気を持って進む。此の道は、
決して短い道ではない。然し、
希望を失ふことなく、
勇気を持って進む。此の道は、
決して短い道ではない。然し、
希望を失ふことなく、
勇気を持って進む。

今も昔も同じく
大徳の徳を
受けて
今も昔も同じく
大徳の徳を
受けて

題不知

大海河の流るる如く
其の源は
大徳の徳を
受けて

洋國船門より
悟道の
百回
人哥

船の井の

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or address, located at the top of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or address, located in the upper middle section of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or address, located in the middle section of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or address, located in the lower middle section of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or address, located at the bottom of the page.

